



## みのりの秋

第29号

各施設ホームページには、法人ホームページからアクセスしてください。

<http://www.k3.dion.ne.jp/~hakukou/>

各施設のホームページにメールボックスがあります。ご意見、ご感想をお寄せください。

平成24年10月31日

社会福祉法人 薄光会 広報委員会発行

本部、太陽のしずく : 〒299-1607 千葉県富津市湊 1070-3  
ケアホームCOCO

TEL 0439-67-3711

豊岡光生園 : 〒299-1742 千葉県富津市豊岡 3535-1  
相談支援センター天羽

0439-68-1711

0439-68-1833

三芳光陽園 : 〒294-0825 千葉県南房総市上堀 280

0470-36-3211

鴨川ひかり学園 : 〒299-2854 千葉県鴨川市代 1297

04-7099-3311

湊ひかり学園 : 〒299-1607 千葉県富津市湊 934-18

0439-70-6551

# 風と語るろうそく

『みる(職員)・みられる(利用者)の関係性』からの脱却を目指して

数年前の日本知的障害者福祉協会の月刊誌「さぼーと」にO氏の『職員室の「ある」「国」と「ない」「国」の記事がある。

そこには次のようなことが書かれていた。少々引用が長くなるが、ご了承を。

【七十年代の後半、勤務先であった当時スウェーデンでは入所施設に職員室というものはありませんでした。各現場には職員が必要な事務を行う小さな場所があるだけでした。その後、デイセンターやグループホームが次々と設立される時代になりましたが、職員室というものを見たことがありませんし、(中略)一般的に、職員一人ひとりが自分のデスクを持つというのではないわけです。ですから、九十年代の初めにデイセンターの全員で日本を訪問した時には、この施設に行っても大きな職員室があり、利用者が帰った後に多くの職員が遅くまで残ってパソコンに向かっていて姿を見て、少なからず驚いたのです。(中略)日本の現場では、利用者に関わる仕事が終わった後にも、活動日誌やケース記録、支援計画や行事など、職員の皆さんは事務仕事に追われていくのみです。きっと、本来重要なは

ずのケースや活動に関するミーティング、職員同士の話し合いの時間もなかなか取り難いのではないのでしょうか。(中略)必要なものだけを残し、仕事を簡素化して、後はできるだけ職員同士の「コミュニケーション」や、ケースの対応、スキルアップに費やすということは、そう願うとしてもなかなかできないというのが現状でしょう。】

なぜスウェーデンには日本では当たり前のようにある職員室がないのか、逆に日本にはなぜスウェーデンにはない職員室があり、職員がそれほど多くの事務仕事をしなければならぬのか考えてみました。もちろん良し悪しで比較することもないと思うが、ズバリ、スウェーデンに職員室がないのは、そして事務仕事が少ないのは、利用者を『管理しているという視点』がないからではないかと思う。

人が日常的に「何時に起きて、何時に排泄して、何をいつ食べて、何をどうしてどうなったか」ということを他人に管理されることはしないだろうし、それは障がいをお持ちの方についても同じで、スウェーデンではそのように考えられているに違いない。いや、考えられているのではなく「当たり前」のこととなっているはずだ。

O氏は最後に、日本ではスウェーデンのような国民総番号制度は、国や自治体に管理されたくないという感情から受け入れ難いようだが、障がいをもちの方の管理されている立場は同じではなからうかと述べている。

この記事を読んで、職員一人ひとりが深く考えな

ければならない内容であることだと確信した。

先日、『利用者支援の根本に持っていたいもの』というタイトルで職員同士が議論を交わっていた際「目の前の利用者の立場と自分自身の立場を入れ替えて考えることが大切だ」という意見が出た。その意見に対しある職員が「職員と利用者」に「みる人(職員)・みられる人(利用者)」で分けられたラインが引かれ、そのラインの向こう側にいる利用者として立場を入れ替えるという意味であれば、それは違うと思う。私たちはまだまだ「みる(職員)みられる(利用者)の関係性から脱却できていない」と話した。

「同じ視点に立つこと、立場を入れ替えて物事を考えることなどと簡単に分かったつもりにならないで、生きてきた過程や経験が違うので分かり得ないことを率直に認めた上で、だからこそ利用者の世界や思いを分かりたいと思うこと、分かるうとすること、そのために寄り添うことが何よりも大切なことではないか…」その日はそれで話を閉じた。

福祉事業所における利用者と職員の関係性はまだまだ「みる・みられるの関係性」であり、この点に気づくことは容易ではないが、常々深く考え意識し、仕事をするのが大切なのではないかと思っ

(多田)



# COCO de COCO



## 『毎日が挑戦！』

ホームのみんなは、毎年地元のお祭りを楽しみにしています。

踊りの輪に加わったり出店でわたあめやかき氷を買ったりするのはもちろん、夕闇に浮き上がる白熱球の列や浴衣姿の子供たちが賑わう雰囲気にくわくしているようです。

今年はその華やかな雰囲気盛り上げるための花飾りを作る集まりに、世話人さんと一緒にのどかの吉野さんが参加しました。顔見知りの近所の方々と会話を楽しみながら、熱心に作業に取り組んでいたそうです。



吉野さんは後口うれしそうに、そしてちょっと誇らしげに、その時のことを話してくれました。お客さんとしてお祭りを楽しむだけでなく、地域住民のひとりとして近所の方々と一緒に祭りの準備をしたことはちょっとした挑戦だったかもしれません。

ポンポンと火花が上がった当日の朝、ホームの玄関先に花飾りを飾ろうとそわそわしている彼女

の姿がありました。

ケアホームも今年で四年目、最初の頃はスーパーに買い物に行くのも自分たちでゴミを出しに行くのも“挑戦”でした。ほんとうにたくさんの挑戦をしてきたと思います。

事務である私はホームの様子を時々しか見ることができませんが、そのたびに感じるのは、ホームで暮らす人達みんなが、自分の生活を自分で作っていているということです。たくさんの様々な“挑戦”を繰り返してそれらを“日常”のあたりまえの生活にしっかりと変えていっています。これからも、みんなの挑戦は続いていきます。



## 『六〇〇段』挑戦』

ホームでのある休日の出来事です。その日は支援員二人体制だったので、いつも出来ない事をしようと、『東京タワー』に行く事になりました。

車内では「エレベーターを使わずに運動を兼ねて階段で登ろう」など盛り上がっていましたが、実際階段を目の前にするじ…。

意気込みは急速に下降して、自然と体がエレベーターの方を向いています。

しかし、二人だけ階段の前から動かずに『まだか、まだか』と行く気満々の挑戦者がいました。

その挑戦者の名は、『千原伸介さん』と『小林一樹さん』です。

二人とも勢い良くスタートしましたが、行けども行けども階段なんて徐々にペースが…。

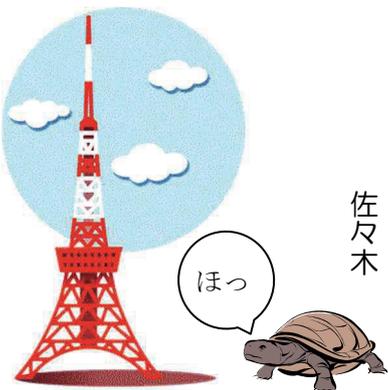
下を見ると、さっきまで一緒にいたエレベーター組がちっちゃく見えます。手を振って応援してくれています。予想外の階段の多さに悪戦苦闘している二人には笑顔をふりまいて応える余裕がありません。

しかし、二人とも弱音を吐かず登りきり、汗だくで展望台からの景色を眺めていました。

その後、スカイツリーが近づくに見えたので、「あそこにも」と、みんなで話し合って行くことになりましたが、今度は道が…。

すかさず小林さんが運転士に喝。「ばおおー」（めげるなあー）

佐々木



# 太陽のしずく

「夏」挑戦したい



太陽のしずくの横に借りている休耕地に、十数本のさるすべりが植えてあります。

平成七年十二月二十三日、豊岡光生園は、宮内庁から金一封をいただきました。二代目理事長と施設長が緊張した面持ちで県知事から受け取ったそうです。みんなで色々と考えて、バスの車庫へ通じる坂道に記念樹として、さるすべりを植えました。反対側には、さつきを植えたそうです。その坂道を『花街道』と呼んで、春夏、利用者さんは季節を感じながら、嬉々としてバスに乗り込んでいました。

\* \* \*



いま、悲願だった豊岡光生園の改築工事が始まろうとしていて、

『花街道』は切崩されることになりました。

毎年きれいに花を咲かせる木を切り倒すのはかわいそうなので、太陽のしずくの横の休耕地に一時預かりをしたのです。普通、植え替えは夏にはしません。改築工事のため、急がなければなりませんでした。枯れてしまわないかとみんな心配していました。そこにジョブチーム「ありんこ土木」のみなさんが登場、暑い毎日、長靴を履いて水やりをするようになったのです。



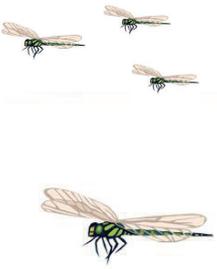
水を溜める大きな容器は、ケアホームを改装した時に出た浴槽を再利用しました。休耕地の横の水路をせき止め、水中ポンプで汲み上げて、さらにポリバケツにひしゃくで汲む作業。ことのほか熱心に山崎さんがやっていました。けれども、しだいに疲れてきた様子。

「あと十回やったら終わりにしましょうー」と声をかけたら、偶然なのか数えたのかわかりませんが、ちょうど十回やったところでベンチが置いてある所へフワフワと行って空を仰いで休んでいました。

「ありんこ土木」のみなさんは、初めのうちは木に水をやるのが理解できないようで、伸び放題の雑草に水をあげていたそうです。

でも、毎日の積み重ね、木の根方に水やりができるようになり、さるすべりはとても鮮やかな深紅の花を咲かせています。

みなさんの頑張りはとてもすごいと思います。



大野



花さかおじさんの夢ひらけー！



ある日、香取さんが花壇を前にしゃがんで何やら土いじりしている姿を発見！ それから数日後そこには小さな芽がたくさん出てきていました。何を隠そう、香取さんは『花さかおじさん』と言われるくらい花を咲かせる名人なのです。

これまでCOOCOの庭をマリーゴールドでいっぱいにしたという話を聞いていたので、何の花が出てくるか興味津々で待っていると、やはりマリーゴールドの花が次々といういろいろな場所から咲き出します。楽しくなり、

「これって、何か出来ないか」

職員皆で考えることに。

まずはプランターに移し替え、飾ります。つぎはポットに移し替え、日頃お世話になっている病院や、和光保育園へプレゼントすることに。

最後は・・・どこかで売れるようになったらいいなと夢は膨らみ、是非挑戦していきたいと思っています。

香取さんの手からマリーゴールドだけでなく、いろいろな花が咲き出したら素敵です。

ただいま挑戦中！

支援員 明石真利子



# 園だより

## 『自然の宝庫 戸面原ダム』

富津市豊岡にある戸面原ダム。

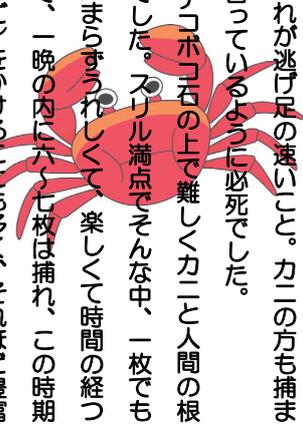
豊岡光生園は、このダムのほとりにある。四季の移り変わりと共にダムの水は、地域の人達の暮らしにも密接な関係があり、そして多くの生き物も生息している。

三十数年前、私が嫁に来た頃は、上流ではハヤ(体長七〜八センチの小魚)もたくさん捕れ、流水の中に石罅を作り、その中にハヤを追い込むと一度に数匹は捕れたものでした。このハヤを串に刺し、炭火で一晩中乾燥させるとカリカリの保存食となり幅広く食べられ、特に甘露煮や昆布巻きにすると絶品でした。

春から夏にかけて夜になると、モスクカニ捕りにも行き、カーバイトの明かりを照らしながら、水中を音を立てずに「そつと」と、そつと「歩き、大きな石の下に、潜んでいるモスクカニを素早く捕まえる。これが逃げ足の速いこと。カニの方も捕まっていたまるかたでも言っているように必死でした。

水の中を歩くのも「ホ」石の上で難しくカニと人間の根比べといったところでした。スリル満点でそんな中、一枚でも捕えた時には、もったいずらうれしくて、楽しんで時間の経つのも忘れてしまふ程で、一晩の内六〜七枚は捕れ、この時期にはデ(捕獲用の竹かご)をかけることも多く、それほど豊富にいたってびっくりが、

あぐろの夕食には、カニ汁が食卓に並び、これが美味しいなの。一言では言い表せない程でした。近頃では大



分食卓に並びことも少なくなりつつも、まだまだ上流には生息しているようです。地域の集まりがあると、時々話題になり、捕りに行けない我が家に届けて下さる方もいて感謝しながらお返しにあげたりしています。

生き物と言えは最近では、ほとんど鳴き声が聴こえてきませんが、春〜夏の夜になるとダムから奇妙な声で「グオー、グオー」と聴こえる。地元では、大きなカエルのことを食用カエルと呼んでいますが、あちらこちらから聴こえ、まるでテノール合唱団のようで、暗の中に響き渡ったものでした。

情緒ある、こんな戸面原ダムも、毎年毎年夏になると日照りつつとなり、ダムの水量が激減し雨乞いを待つ苦労もあります。夏の間は、ダム清掃でも行われているようで、これも自然の営みでもいろいろか。再び雨が降り出すと、あつという間に水量も増し、元のダム湖となる。こんな繰り返しをしてきた戸面原ダムですが、秋には周辺の木々の葉が色彩に衣替えし、それは美しい風景となり、まさに自然の宝庫に囲まれている私達は、幸せなのかなと思っています。

(原) 榮

## 『新たな発見!』

圭二さんが豊岡光生園に入所して半年が経った。これまでお母さんへだっただった生活。光生園に来てからの生活は全く異なるものだった。

彼はこの半年、お母さんに会っていない。この夏の終わりに圭二さんはようやく、園の予定をずらし自宅へ帰った。

私は入職してまだ半年。圭二さんとはお互い新入り同士だ。

お盆の期間、圭二さんも含めて帰省できない利用者の方々と、園庭でバーベキューをしたり、外食に行った。利用者の

方々と深く知り合いになれる絶好のチャンスである。圭二さんともお近づきになれたようだ。

\* \* \*

「お寿司が食べたい!」と、皆の意見が一致し、回転寿司へ向かったが、夏休み中の昼時、どこに行っても混んでいる。あちちへこちちへと放浪の旅…。そのうち圭二さんが「おしっこ」と入ったコンビニ。一直線にお菓子の棚へ：私はあせった。

「帰りに買いましょうね…」

再び車中の人となった圭二さん、その手には念願の「ポテトチップス」。その袋を抱えて満面の笑みを浮かべている。私は「圭二さん、ちょうだい」とささやいてみた。取られまいとするかと思いきや、「うん」と答え、横から袋に手を入れても「ニコニコ」している。体型でのおりの太っ腹な彼だった。

寿司屋に入る。回るお皿は目の前を素通り。なかなか手が出ない。もしや、あまり好きではないかも…。やっぱりお肉か…。と思いながら、「圭ちゃん、お寿司はっ」と促すと、まぐろをパクリ。続いて回ってきた揚げ物が「手がびびムシヤリ」。皿には飯俵が残ったまま。やっぱり、ふりかけが必要かぁ…。

\* \* \*

今は、野菜類も食べられるし、職員とする会話も増えた。

音感よく、聞いた歌を覚えては口ずさむ。風間のおじいさんの車のタイヤをブリシで一先懸命洗っている。日々刻々、いろいろな表情に出会う。優しく暖かな眼差し。気持ちの切り替えのしなやかさと受け入れ間口の意外な広さは、この頃見えしてきた一面だ。圭二さんの持っている可能性をどんどん引き出したいと思っている。また、新入り同士、一緒に成長していきたいと思う。

森田



# 学園新聞



「プププ…」

“ダイエット”

えー、これは最近、ひかり学園でよく耳にする単語です。

「〇〇さん、また体重増えましたね！」

毎月の体重測定のためにプツプツと職員から小言のように言われ、いよいよ利用者みなさんにも“ダイエット”への意識“がめばえてきたみたい…”



“ダイエット前”の立派なおなか…

この夏、地域活動支援センターの利用者のみなさんは職員と一緒に「散歩塾」なるものを立ち上げたよつで、毎日、汗だくになりながら散歩から戻ってきてましてね。きつと長い距離を歩いてきたんでしよう。また、暑さしのぎでプールに入れば、みんな

でバタ足競争や、水入りバケツを手にして水かけ合戦で楽しく遊びながらトレーニングに精を出しております…

さてさて、冒頭のプヨプヨのおなかはどうなりましたかねえ？

\* \* \* \* \*

ダイエットの結果はともかく… 個人的な意見を言わせてください！ 利用者みなさんの健康を切に祈りつつ。ダイエット！ ファイト！ っ  
て熱い声援を送りたい。だけど、やせた〇〇さんや△△さんなんてイメージ出来ない！

そのおなかが好き！ みんな“プヨプヨ”のままでいてほしいなあ

(中 後)

## 「日焼けで金メダル？」

夏休みも終わり、利用者みなさんの黒く日焼けをした顔を見ながら考えた事です。

もし… オリンピックの種目に“日焼け競技”があったとしたら…

もし、そんな種目があったら、私はたくまくんがきつとメダル候補になるんじゃないかと思えます。今年のたくまくんはそれくらい“まっ黒”なんです。

たくまくんの“まっ黒な身体”は学園のプールで作られました。この夏休み、たくまくんは利用

日を一日も休む事なく、毎回、大好きなプールに入っていたんです。水を頭からかぶるのがお気に入りのたくまくんが私たち職員に

「頭に水をかけてくれ！」



と全身を使ってせがみながらも、待ちきれない！  
と言わんばかりにバケツを持ってきて、自分で頭から水をかぶってみたり、水遊びに夢中になって、みんながプールからあがった後もひとりプールではしゃいでいた姿が

思い出されました。そんな事を考えていると、

「あー 夏ももう終わりかあ」

なんて、少し感傷的になってしまふ私ですが、たくまくんのまっ黒な顔を覗き込みながら、

「水遊びが大好きなたくまくんも、きつと同じ事を考えているのかな？」

と思わずニヤリ。

たくまくん、大好きな事に一生懸命だった証”として、その黒い顔に金メダルを贈ります。ハイ、ポーズ！

(糸日谷)

## 『介護福祉士を目指して』

平成二十年度から経済連携協定（EPA）に基づく外国人介護福祉士候補者の受入れが開始され、これまでにインドネシアとフィリピンから、合わせて七百八十八名の介護福祉士候補者が入国されています。

介護福祉士候補者の初回の受験となった第二十四回介護福祉士国家試験では、受験した九十五名の介護福祉士候補者のうち三十六名が合格されました。（合格率は三十七・九％）

千葉県では、袖ヶ浦にある介護老人保健施設「カトリアンホーム」で働かれていますラゼスさんというインドネシア出身の男性が合格されました。

先日、千葉県高齢協、デイ協合同主催で、ラゼスさんと今年度の介護福祉士試験を受ける十五名の候補者が参加して、「EPA外国人介護福祉士候補を囲む会」が開かれました。

昨年度からデイ協の人材確保対策委員に任命されている私は、なかなか無い機会なので、出席させていただきます。

各々の国で、介護福祉士候補となられた方々は、

- ①日本語研修（訪日前六か月間）
- ②日本語研修（訪日後六か月間）を経て、
- ③介護導入研修、就労ガイダンスを受け、

④介護施設で雇用契約に基づき就労・研修（三年以上）を行います。この三年間で介護の専門知識および技術の修得と日本語の継続学習に取り組み、介護福祉士国家試験の受験となります。

EPAの枠組みで介護福祉士候補者が日本に滞在できるのは最大四年間ですが、受験には現場での実習が三年以上必要なため、原則一度しか受験できないこととなります。国家試験に合格すれば介護福祉士として就労することができ、在留資格は上限なく更新可能ですが、合格しなければ、帰国を余儀なくされます。（一定の条件を満たせば、一年間の延長が可能なようです）

この難関を突破されたラゼスさんの体験談を聞かせていただきましたが、この四年間で漢字を覚え、文章の読解力を高め、専門用語や試験科目の基礎知識を習得した努力には、本当に頭が下がります。

「試験に合格するには専門用語を覚えなければならないけれど、現場でお年寄りと接する時に使ってはならないのが専門用語だから、とても大変だった」と話をされていました。

自分と同じテーブルに座っていた施設長たちも、大きくうなずいていました。今の介護現場でこのことに気がついている介護員はどのくらいいるのでしょうか。四年間という短い期間でこのことに気がつくラゼスさんの資質と施設で支援された担当者の努力が結びついて、晴れて合格となったように思います。

今年度受験される候補者の方々、一月の試験日

まであと少しです。今まで学習してきた効果がちよつと試験日にピークになるように合わせることが大事だとラゼスさんの支援者の方は言っていました。

合格目指して頑張りましょう。

ところで、今年度受験する三芳光陽園の介護員たちはどうなのでしょう。

「とりあえず受験資格ができたので・・・」なんて言っていないで、一発合格を目指してほしいものです。

（施設長 神谷）



## 『施設のお色直しです』



開園以来、手をつけていなかった外壁と屋上の防水塗装工事が始まりました。十二月の半ばにはお色直しが済んで、新年は装いも新たに迎えたいと思います。

## 『笑顔の素』



今年から作業班の一つに「ライフサポート」というチームができました。主な



活動は、介護食を作って食べることです。

「介護食」を想像してみてください。どんなイメージですか？ 美味しくない、食感がない、見た目が悪いなど良いイメージは少ないと思います。

そこで、「介護食をより美味しく、楽しく食べよう！」を目標に、職員を含めてメンバー七名で活動しています。

ミキサーを使い、旬の野菜や果物を調理するのですが、最初はミキサーの音に驚く利用者の方も多くて苦戦しました。回を重ねるうちに音にも慣れ、今ではボタンを押すのが楽しみな方も。

メンバーの一人、順一さんは果物や甘いものが苦手ですが、作業で作ったものは食べてくれます。きっとみんなで調理するのが楽しいのでしょうね。味見係は彼の役目になっています。

介護食の研究を始めてから半年、完成後は写真を撮ってノートに記録しています。一番好評だったメニューは、黒ゴマ豆腐ときな粉入りのバナナジュース。ミキサーで攪拌するだけで簡単です。一度お試しあれ！色々なことに挑戦したいので、一時間で作れる簡単な調理のアイデアを募集中です。

この作業チームで、「南房総市なのはな村案山子コンテスト」に出品しました。テーマはもちろん「食」。一番使う食材のバナナに、果物、野菜を飾りつけた案山子です。結果はスポンサー賞。

賞品はイチゴの苗。これを大事に育てて、美味しいジュースを作りたいと思います。みんなの笑顔のために！

川名



## 『はじめまして！』

九月一日より一緒に働かせていただくことになりました「根本なつき」です。

よく夏生まれ？ と聞かれますが、春生まれ、趣味はスキューバダイビングです。福祉の仕事経験はありますが、

ここひかり学園では、まだまだ慣れないことが多く、戸惑うことがあります。利用者の方々が楽しい時間を過ごせるお手伝いができればと思っています。



## 『あっぱれ！ 案山子コンテスト』

作業グループで製作した案山子を各コンテストに出品しました。結果は九体すべてが入賞！合計で五十キロのお米をいただきました。

## 『みんなみの里、たのくろ里の村、なのはな村案山子コンテスト』出品作品



最優秀賞に輝いた「ナルト」です。



### 【編集後記】

ようやく暑い夏が終わるぞ！ と思っていたら、急に涼しくなってきました。季節の移ろいを実感しています。

今号のきらめきは、利用者の皆さんや職員がこの夏に目標を立てて取り組んだことや挑戦したことを題材にしてみました。皆様のご感想をお聞かせくださると幸いです。(法人広報委員会)